



着任のご挨拶

所長 平野 忠

今年3月をもって退職された田村前所長にかわり、4月から着任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

思えば昭和46年、紅顔の美少年だった頃、新採用で当所の前身の水産増殖センターに奉職して以来、4度目、通算17年目の勤務になり、県職員としてのキャリアの半分近くを当所で過ごすこととなります。この間、アワビやホタテガイ、ヒラメ、ナマコなど、その時代時代が必要とされる研究に従事してきました。

今、改めて県内の漁業の状況を見ると、漁獲量は減少の一途を辿っており、作り育てる漁業の優等生となったホタテガイの一人勝ちの感がある一方、その他の魚介類の増殖努力の必要性を痛感し、我々研究者の責任を肝に銘じているところです。

水産を取り巻く情勢の厳しさは今更私が言うまでもありませんが、最近出された水産白書に、国際的な魚介類需要の増大により魚価が高騰し、日本が欧米や中国等に買い負けているという記述が載せられました。私は、前職のふるさと食品研究センター所長の中から、水産加工業の原料調達のためには厳しい状況であるが、別の見方をすると日本にとっては国際市場に魚や加工品を売るチャンスでもあるというのが持論です。ただ、そのためには、国際的に通用する衛生管理対策が不可欠であり、漁獲から荷受け、流通加工施設までの対応が急がれるところです。

当所の今年度の目玉としては、県の行政改革により昨年度で廃止された県立海洋学院にかわり、漁業後継者育成のための研修施設として「賓陽塾」が当所に開設され、さる5月14日に長谷川出納長揮毫による表札を研修棟に掲げ、開講式を行ったところです。塾生の定員は一応10名となっていますが、全員が平内町を中心としたホタテ養殖の従事者であり、毎日フルには出席できないということから、出席率を5割とみて16名と多めにとりました。研修期間は7月一杯までの2ヶ月半ですが、立派な漁業後継者になることを目指して、増養殖技術や漁業実習などの各種研修に毎日励んでいるところです。

関係者の皆様には、当塾の開設に当たり多大なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。

特に地元茂浦支所には一方ならぬお世話になりました。今後も研修の実施について、より一層のご理解・ご協力を賜るようお願い申し上げます。

青森県の試験研究機関は近い将来の独立行政法人化に向けて検討中ですが、当所としてもそれに備え研究のより一層の効率化や研究成果の発信・普及に努めるとともに、外部資金の導入促進など運営の効率化を図ることとしておりますので、関係者の皆様には、今後とも当所の業務にご理解、ご協力のほどお願いいたします。

